

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	比較文明論関係	
教員	准教授：津守 陽 (中国文学)	教授：太田 出 (東洋史学)
1～2回生	東洋史Ⅰ・Ⅱ、東アジア比較文芸論、東アジア比較文芸論演習	東洋史Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化交渉論、東アジア文化交渉論演習
	日本と同じ東アジアに属する朝鮮半島や台湾、香港のほか、中東やヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカといった地域や、移民問題、社会変動、芸術・文化などにも関心を持ちながら、幅広い授業を履修して欲しい。あわせて英語はもちろん、中国語、朝鮮語、アラビア語、スペイン語、フランス語など西洋と非西洋世界を知的に往還するための言語を学んで欲しい。また高度な日本語能力を養うことも大切であるので、新書などを数多く読んでもらいたい。	
3～4回生	東アジア比較文芸論、東アジア比較文芸論演習	東アジア文化交渉論、東アジア文化交渉論演習
	3回生には、自らの問題関心を研ぎ澄ませていき、当該分野の専門の講義・演習に参加するとともに、東アジア比較思想論、文化交渉複合論、ポストコロナル思想文化論、比較パラダイム文明論、ユーラシア文化複合論、中国社会論、中国文字文化論、文化人類学方法、地域空間論など、問題監視にあわせた専門科目を履修して欲しい。4回生には、卒業論文の執筆に向けて問題意識を尖鋭化させながら、文献史料を読み込む訓練を受け、論文というかたちでまとめ上げていてもらいたい。	
本分野では、東アジアの政治・経済・文化などに多大な影響を及ぼしている大国・中国を中心としながらも、それを日本や朝鮮、台湾、香港などと比較することで、地域間の影響関係の有無をグラデーションで考えてみる。今後、日本を含む東アジアの過去・現在・未来を研究しようとするとき、いい意味でも悪い意味でも中国ぬきに考えることは不可能であり、本分野では、学生一人ひとりがそれを前提として研究を進めていくとともに、決して中国を過大評価することはなく、等身大の中国を見つめ相対化しながら、東アジアにおける各地域の有り様を考えていて欲しいと願っています。		

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係
教員	教授：小倉紀蔵（比較文明学・東アジア比較思想）
1回生	<p><全学共通科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 <学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 <学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。</p>
3回生	<p><学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 地球科学演習C 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。同時に卒業研究の方向性を意識しつつ、思想関係のより専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	<p><学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修し、自分の頭で徹底的に考えぬいてください。</p>
<p>比較文明学・比較思想学は、他の学問分野と関わり合いを持つ非常に広い学問ですので、まず1回生のときからできるだけたくさんの外国語を習得してください。10個くらいの外国語をまず覗いてみて、そのうち西洋・アジアの言語合わせて3つ（英語以外）、プラス漢文読解をマスターできればいいと思います。それから幅広い知識が必要ですので、大学の授業以外に、岩波文庫や講談社学術文庫、ちくま学芸文庫などをジャンルに関係なく1回生と2回生のときに年間150冊ほど読んでください。読むものは、自分の好きなジャンルやテーマで結構です。ここまでが基礎体力づくりの段階です。3回生からいよいよ学問を始めます。演習の授業では原典を読み、また研究発表をしますもので、こころを強くして正確性と独創性を発揮してください。ひとに批判されても自信をなくしてはいけません。自分の基礎体力を信じてたたかいを挑んでください。</p>	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論
教員	教授：勝又直也（ユダヤ学・中世ヘブライ文学）
1回生	<p><全学共通科目> 文化環境学系入門／アラビア語ⅠA・B／宗教学Ⅰ・Ⅱ／宗教人類学</p>
	<p>人文学の様々な分野を幅広く学んでください。特に、語学ではアラビア語を学ぶことをお勧めします。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究「英語で読む聖書とその解釈」／アラビア語ⅡA・B／ギリシア語A・B <学部科目> ディアスポラ思想文化論A・B／欧米歴史社会論ⅠA・B</p>
	<p>人文学を幅広く学ぶとともに、ユダヤ学に関連する科目を履修することを推奨します。</p>
3回生	<p><学部科目> ディアスポラ思想文化論演習A・B／欧米歴史社会論ⅡA・B</p>
	<p>卒業研究の方向性を意識しつつ、ユダヤ学に関連するより専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	
	<p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修してください。</p>
<p>まずはユダヤ教やユダヤ人に少しでも関係しそうな分野を広く学んだうえで、専門的に研究したい分野を時間をかけて絞っていくことが大切です。 必要となれば、文学部などの他学部、あるいは同志社大学神学部などの他大学で開講されている、ユダヤ教やユダヤ人に関する講義や演習にも参加するといった積極性も大事です。</p>	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係・文明交流論分野
教員	准教授：中筋 朋（フランス演劇・思想）
1回生	<p><全学共通科目> 芸術学／科学論／自己存在論／人間実践論／宗教学／神話論／哲学／哲学・文化史／宗教人類学／生態人類学／文化人類学など</p> <p><学部科目> 文化環境学入門／ILASセミナー（「フランス学に触れる——文学・思想・映画」） ＊年度により、総人ゼミも開講していますので、確認してみてください。</p> <p>全学共通科目はとりわけ関連深い科目を例として挙げていますが、自分の関心を第一に、広く履修してください。 また、思考力を鍛えられ、勉強の基礎体力となる語学もしっかり学習してください。専門科目ではフランス語の講読をおこないますので、可能ならフランス語を履修してください。</p>
2-3回生	<p><全学共通科目> フランス語Ⅱ（中筋）</p> <p><学部科目> 比較パラダイム文明論（講義・演習）／メディア・スタディーズ／舞台芸術論／文芸表象論／創造行為論音楽文化論／西欧近現代表象文化論／東アジア比較思想論／東アジア比較芸能論／文化実践論など</p> <p>フランス語Ⅱでは、フランスの中学生・高校生向けの文学教材を用いて、フランス語とともに文化について学びます。フランスでどのような教育がおこなわれているのかを知る機会にもなりますので、受講してみてください。 学部科目は、卒論指導を希望する学生は、比較パラダイム文明論の演習を受講してください。ほかにも、例に挙げた科目をはじめとする科目に関心に応じて履修してください。総合人間学部の科目だけでなく、興味によっては文学部のフランス語学・フランス文学特殊講義や科学哲学科学史の科目ものぞいてみてください。 また、2、3回生は卒業論文にむけて外国語で文献を読む力をつけていく時期です。学部の演習科目の講読や、文学部のフランス語学・フランス文学講読授業を通じて、じっくり読みながら考えるくせを身につけていきましょう。</p>
4回生	<p><学部科目> 比較パラダイム文明論（講義・演習）／卒業論文</p> <p>講義・演習に出席しながら、卒業論文に集中して取り組む時期です。早めに題材・方法論について相談して、じっくり執筆を楽しみましょう。</p>
<p>演劇は、人間の行動・思想・情動を、そして人間同士の関係を、人間の身体をもって示す芸術です。つまり演劇について考えるということは、人間のあらゆる営みについて考えることです。また、時代ごとにどの部分が特に強調されているかを考えることによって、時代ごとの人間の捉え方の特徴について考えることも可能です。幅広い分野の勉強をして、同時に語学や文献の講読によってじっくりと考える時間もとって、その成果を卒業論文として結実していきましょう。最初は関係ないように思えた分野も、ひとつの対象について考える過程でつながっていくという体験が卒業論文でできればよいなと思います。</p>	

《履修モデル》

講座	7.共生世界講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論
教員	准教授：徳永 悠
1回生	<p><全学共通科目>英語リーディング/英語ライティングーリスニング/現代史概論/偏見・差別・人権 <学部科目>近代移民史基礎ゼミナール</p> <p>日本を含む世界各地の歴史について学んでください。また、歴史学以外の人文・社会科学の授業も幅広く受講してください。交換留学を希望する場合は一回生の時点で準備を始めましょう。近代移民史基礎ゼミナールは毎年開講するとは限りません。</p>
2回生	<p><全学共通科目>外国文献研究-E1（国際移住—移民の視点から理解するグローバル化）/Japanese History I-E2・II-E2/Introduction to Globalization I-E2・II-E2/ラテン・アメリカ現代社会論 <学部科目>近代移民史A・B/近代移民史演習A・B/多文化社会論A・IB/多文化社会論演習IA・IB <他学部>社会学・講読：社会学の基礎的文献の英語講読（文学部）/現代史学・特殊講義：日本社会運動史（文学部）</p> <p>引き続き、人文・社会科学の授業を幅広く受講しながら、移民史研究の基礎的な力を身に付けてください。近代移民史A・Bは隔年開講です。</p>
3回生	<p><学部科目>近代移民史A・B/近代移民史演習A・B <他学部>社会学・特殊講義（Welfare Regime and Cross-Border Migration in Asia: labor, marriage and evacuation、文学部）</p> <p>移民史に関する専門的な内容を学ぶとともに、卒業論文の構想を練り、具体的な調査計画を立ててください。オフィスアワーを活用して卒業論文について指導教員に相談してください。近代移民史A・Bは隔年開講です。</p>
4回生	<p><学部科目>近代移民史演習A・B/卒業論文</p> <p>卒業論文の調査と執筆に取り組んでください。オフィスアワーを活用して卒業論文について指導教員に相談してください。</p>
<p>移民史は、国境を越えて移動する個人の視点を重視し、一国史の枠組みを超えて「外国人」や「移民」をめぐる様々な事象について理解を深めるという点で、現代世界と関わりの深い歴史学の分野です。卒業までに、環太平洋地域に焦点を当てて移民史を学び、移民社会における人種差別や経済格差、さらに相互理解や共生の可能性について、調査、考察、表現する力を身に付けることを目標とします。指導を受ける学生は「近代移民史A・B」と「近代移民史演習A・B（重複履修可）」を必ず受講してください。在学中の交換留学を強く勧めます。</p> <p>履修モデルで推薦した科目については、毎年開講しているとは限りません。シラバスを見たり、担当教員に質問したりして事前に確認してください。</p>	

《履修モデル》

講座	7.共生世界講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論
教員	准教授：三代川寛子（中東近現代史）
1回生	<p>＜全学共通科目＞ 人文社会学系の諸科目、特に近現代史、人類学、社会学、宗教学などの入門科目、地域研究基礎ゼミナールなど 初修外国語（特に英語、フランス語、アラビア語） ＜学部科目＞ リレー講義「文化環境学系入門」、その他基礎演習</p> <p>人文・社会科学の様々な分野を幅広く履修し、自分の学問的関心がどこにあるのか見極めていきましょう。例として上記のような科目を推奨します。年度によって科目名が変わる場合があるので、特に学部外科目についてはKULASISで事前に確認してください。</p>
2～3回生	<p>＜全学共通科目＞ 英語リーディング/ライティング・リスニング/初修外国語（アラビア語） ＜学部科目＞ 中東近現代史、共生世界論演習、多文化社会論、ユーラシア文化複合論、近代移民史、欧米歴史社会論、Contemporary and Modern History、国際文明学入門など。</p> <p>卒業論文執筆を念頭に置きつつ、中東近現代史や共生世界論演習を中心に、上に掲げた科目等を必要と興味関心に応じて履修してください。科目選択に迷った場合はオフィスアワーを活用して教員に相談してください。</p>
4回生	<p>＜学部科目＞共生世界論演習A・B/卒業論文</p> <p>卒業論文の執筆に取り組んでください。オフィスアワーを活用して、資料収集や目次の立て方など卒業論文に関連する指導を教員に相談してください。</p>
<p>担当教員はエジプトの近現代史を専門としており、特にエジプトのキリスト教徒（コプト正教徒）をめぐる宗教マイノリティの国民統合問題に取り組んできました。卒業までに、中東地域に焦点を当てて近現代史を学び、植民地支配が多方面に残した影響、国民国家建設に伴って発生したマイノリティ問題、宗教・民族差別問題や経済格差、開発格差、さらにそれらを乗り越えるための相互理解や共生の可能性について、調査、考察、表現する力を身に着けることを目標とします。ここに挙げた科目はあくまでも例ですので、シラバスを見たり、担当教員に相談したりして履修計画を立ててください。</p>	

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係
教員	講師：Kwak, Minseok（東アジア哲学・思想・文化）
1～2回生	<p><全学共通科目> 人文学・社会科学全般の科目／初修外国語の科目</p> <p><学部科目> 人文学・社会科学全般の科目／トランス東アジア文化思想論A・B／トランス東アジア文化思想論演習A・B／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>人類がいままで蓄積してきた様々な形の知を探検しながら、自らの問題意識に沿って思考する練習を行ってください。外国語の習得は、そのためのきわめて有効な通路となります。</p>
3～4回生	<p><学部科目> 人文学・社会科学全般の科目／トランス東アジア文化思想論A・B／トランス東アジア文化思想論演習A・B／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>自分の興味関心にあわせて専門的な知識を増やし、その土台の上で自らの観点を論文の形式で表現する作業を進めてください。既存の言説に対する十分な理解がないと、自らの観点を適切な言語で表現することはできません。また、自らの問題意識に導かれた独自の観点がなければ、オリジナリティのない研究になってしまいます。この両方を意識しながら研究を進めてください。</p>
<p>日本・中国・韓国（朝鮮）を含む東アジア文明の特質を究明するためには、東西古今のあらゆる思想文化を視野に入れておく必要があります。それと同時に、専門領域で新しい認識を獲得するためには、高度に専門的な知識も必要です。マクロな思考とミクロな思考が交差するところで、はじめて価値の高い認識が得られます。</p>	

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（環境構成論分野）	
教員	中嶋節子 教授 都市史・建築史・都市景観論 前田昌弘 准教授 災害復興・まちづくり・計画論 藤原 学 助教 建築論・空間構成・建築と文学	
	「都市・建築・環境の歴史と社会」コース	「災害復興・地域まちづくり計画学」コース
1回生	<p><学部科目> 文化環境学系入門/国際文明学系入門A <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間論各論Ⅰ/都市空間論基礎ゼミナールⅠ/図学A・B/地域地理学関係科目/人文地理学関係科目ほか <全学共通科目>（主専攻科目とまらない） 建築関係科目/都市史関係科目/芸術学関係科目/公共政策関係科目ほか</p>	<p><学部科目> 文化環境学系入門/人間科学系入門A <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間論各論Ⅱ/都市空間論基礎ゼミナールⅡ/図学A・Bほか <全学共通科目>（主専攻科目とまらない） 防災学概論/環境防災生存学特論/ILAS Seminar現代建築の歴史と理論/公共政策関係科目/経済学・社会学系科目ほか</p>
	自由科目は相談してください。 他学部開講科目については、科目名、提供科目が異なる場合があります。シラバスや担当学部事務室で確認してください。	
2~3回生	<p><学部科目> 環境構成論Ⅰ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅰ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅰ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅳ（演習と実習は隔年開講。）/文化・地域環境論（建築読解入門）</p>	<p><学部科目> 環境構成論Ⅱ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅱ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅱ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅳ（演習と実習は隔年開講。）/文化・地域環境論（建築読解入門）</p>
	他学部を含む建築学 歴史学 造園学 地理学 社会学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。	他学部を含む建築学 防災学 社会学 文化人類学 経済学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。
4回生	<p><学部科目> 環境構成論特別演習A・B</p>	
	卒業研究のテーマを設定し、論文執筆に向けて調査・研究を進めていただきます。論文執筆に必要な科目があれば、追加履修することをお勧めします。	
<p>環境構成論は人間の生活環境である都市（集落を含む）と、それらを構成する建築（庭園・土木構造物・インフラ・緑地を含む）を扱う学問分野です。 この分野へのアプローチは、個々の構成要素から分析を進めるミクロな視点から、全体像を捉えるマクロな視点に至るさまざまな段階があります。また、近年ではパンデミックや多発する災害から既存の居住地や生活環境のあり方を再考する動きも活発です。それぞれの視点において、形成史や構成原理、歴史的・文化的背景、政治的・経済的背景、技術、思想など、フィジカルな現象のみならず人間社会的な事象も視野に入れて、人間の生活環境を深く理解することを目指しています。 ここでは、2つのコースを例示します。</p>		
<p>1. 「都市・建築・環境の歴史と社会」コース（歴史から考える） 都市あるいは集落という空間的まとまりが、いかに形成され、変遷し、現在に至っているのかを理解するとともに、現代的課題として、その保全と継承、これからのあり方を考えるコースです。 <想定される職種> 都市論や都市史、歴史遺産の研究者・技術者/伝統的町並みや文化的景観、世界遺産など歴史的環境の保全にかかわる仕事（国際機関・行政・コンサルほか）/都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）/建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）</p>		
<p>2. 「災害復興・地域まちづくり計画学」コース（地域から考える） コミュニティと居住環境との関係を、災害復興や地域行事の継承などから理解し、これからの居住のあり方、居住地のかたちを多面的に考えるコースです。 <想定される職種> 建築計画や公共政策、地域連携の研究者・技術者/建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）/都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）</p>		
人間の生活環境を捉えるには、どちらのコースの内容も必要ですが、講義や演習を受けるなかで、両コースを組み合わせて、オリジナルのコースをつくることも可能です。履修回生はおおよその目安であり、シラバスに断わりの無い限り、履修順序は問いません。他学部の授業を積極的に受講することもお勧めします。開講科目は年度によって変更があるため、時間割およびシラバスで確認してください。		

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（文化人類学分野）	文化・地域環境論（文化人類学分野）
教員	教授：風間計博	教授：岩谷彩子
1回生	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／生態人類学Ⅱ	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
	全学共通科目については、2回生向けの授業を履修してもよい。哲学・思想・歴史・地理等、幅広く履修すること。また、全学教育科目「生態人類学Ⅰ」（ASAFAS教員提供科目）、Cultural AnthropologyⅠ〔デ・アントーニ担当〕（E2科目）の履修を推奨する。	
2回生	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅰ／文化人類学各論Ⅱ／文化人類学調査演習 <学部科目> 文化人類学調査法	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅱ／宗教人類学／社会人類学調査演習 <学部科目> 社会人類学調査法
	調査法・調査演習は、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、4回生までに必ず履修すること。また、文化・地域環境論（文化人類学入門）〔梶丸他担当〕、Topics in Cultural AnrhropologyⅠ〔デ・アントーニ担当〕（E2科目）の履修を推奨する。	
3回生	<学部科目> 文化人類学演習A／文化人類学演習B	<学部科目> 社会人類学演習A／社会人類学演習B
	文化人類学演習A/B、社会人類学演習A/Bは、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合、4回生までに必ず履修する。また、文化実践論A/B（人文研等教員提供科目）、生態人類学演習（ASAFAS教員提供科目）の履修を推奨する。	
4回生	<学部科目> 文化人類学方法A／文化人類学方法B	<学部科目> 社会人類学方法A／社会人類学方法B
	それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、必ず履修すること。この科目は、4回生のみ履修を認めるが、3回生以下でもオブザーバー参加は可能である。	
<p>文化人類学は、人間の生にかかわるきわめて広い領域を取り扱う学問である。したがって、文化人類学以外にも、人文社会系・自然科学系を問わず、多様な学問的知識を吸収しておくことが望まれる。また、卒業論文においては、フィールドワークが必須となるため、机上の学習のみならず、実際に人間が生活を営む場に参与する経験も重要である。</p> <p>「調査法・調査演習」は、フィールドワークの実践に対応した科目であるため、3回生までに履修しておくこと。これらに加えて、文化人類学分野で卒業論文を書く場合には、指導教員の開講する「演習A/B」「方法A/B」が必修となる。</p>		

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座
学系	文化環境学系
関係・分野	文化・地域環境論（地域空間論分野）
教員	教授：小島 泰雄（農村地理学・中国研究） 教授：山村 亜希（歴史地理学） 准教授：久木元 美琴（都市地理学）
1回生	<p><全学共通科目> 人文地理学 / 地域地理学 / 自然地理学 地理学基礎ゼミナールⅠ読図 / 地理学基礎ゼミナールⅡ作図 地理学基礎ゼミナールⅢ地理情報 /</p> <p><学部科目> 文化環境学入門 / 基礎演習：地理学から中国を考える 基礎演習：歴史地理学 / 基礎演習：都市地理学</p> <p>人文・社会科学から自然科学まで多様な専門領域を学ぶ中で、これらの地理学の基礎的な科目の受講を通して、地域空間論/人文地理学とは、どのような専門領域であるか、そして指導をつけることになる教員はどのような人か、を知ってください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 人文地理学各論Ⅰ（都市） / 人文地理学各論Ⅱ（村落） 人文地理学各論Ⅲ（歴史地理） / 人文地理学各論Ⅳ（地理情報） 人文地理学各論Ⅴ（経済地理） / 地域地理学各論Ⅰ（日本） 地域地理学各論Ⅱ（欧米） / 地域地理学各論Ⅲ（アジア・アフリカ）</p> <p>これらの授業は地理学の各論であり、1回生から履修を始めても構いません。受講を通じて、地域空間論/人文地理学をより深く理解してください。</p>
3回生	<p><学部科目> 地域空間論ⅠA / 地域空間論ⅠB / 地域空間論ⅡA / 地域空間論ⅡB 地域空間論ⅢA / 地域空間論ⅢB / 地域空間論Ⅳ / 地域空間論Ⅴ 地域空間論演習Ⅰ / 地域空間論演習Ⅱ / 地域空間論演習Ⅲ</p> <p><他学部科目> 地理学特殊講義（文学部科目） / 地理学講義（文学部科目）</p> <p>自らの研究の方向性を考えるために、上記の科目の履修を薦めます。とくに「地域空間論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「地域空間論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、研究を進める方法を学ぶために、ぜひ履修してください。また指導教員を選んだ後期からは、院生が研究報告を行うゼミナール（大学院演習）を傍聴することもできます。</p>
4回生	<p><学部科目> 地域空間論演習Ⅳ</p> <p>卒業論文は自らテーマを決めて行う研究活動ですので、学生は指導教員と対話を重ねて、考え、書いてゆくこととなります。「地域空間論演習Ⅳ」は卒論を書く基盤となる地理学の方法を確認する機会となりますので、必ず受講することになります。また、卒業論文の途中経過について7月と11月に発表し、研究室の学生・院生・教員と討論を行います。</p> <p>近年の卒論テーマは、「川の地名」「商店街の形成」「温泉町の形成」「第2位都市」「流水シミュレーション」「商店街の組織化」「ローカル線存続」「駐輪問題」「京都市バス」「京都の銭湯」「観光まちづくり」「郷土富士」「サッカーの地域密着度」「新型書店」「地域資源」「京都の小学校」「アニメの聖地巡礼」「動物愛護」「近代の工業都市」「中心都市の形成要因」「軍港都市」「中口国境」「社会的孤立」「主観的距離」「学生街の変化」「ハンブルクと港」「留学生の日本観」と多様です。</p> <p>「地域空間論演習Ⅳ」以外に、とくに4回生でとるべき授業はありませんが、全学共通科目の基礎的な科目や総合人間学部の専門科目など、自らの教養を深め、専門性・学際性を高めるための履修を継続することを期待します。</p>
<p>地域空間論分野は、人文地理学を専門領域の基盤に据えて、多様な地域の様態と空間の構造を学際的に研究する教員と学生・大学院生が集まる研究室です。小島泰雄（農村地理学・中国研究）、山村亜希（歴史地理学）、久木元美琴（都市地理学）の3名の教員が協力して、学生一人ひとりが自ら選択したテーマに関する研究と卒業論文作成をサポートしています。</p> <p>学生と教員が共有する知的基盤である人文地理学は、人間と自然の関係や地域の多様性を解明することをめざす専門領域です。履修にあたっては、地理学に関する履修（全学共通科目、総合人間学部科目、文学部科目）だけでなく、副専攻をはじめとする多様な専門領域の履修に挑戦し、さらには留学を含めた、将来の活躍の基礎となる自らの力を高めることを意識して、学部学生としての日々を有意義に過ごすことを期待します。なお、この研究室で学ぶにあたって、高校までの地理教育の知識は前提ではありません。</p> <p>1回生から全学共通科目の地理学関係科目（たとえば人文地理学各論や地域地理学各論）をたくさん受講することも、2回生から学部科目（たとえば地域空間論演習）を積極的に受講することも、自らの学習計画に応じて設計してください。</p>	